秋田県五城目町

みんなの町議会

目次

- 12月定例会の経過・年頭のあいさつ……2
- 主な補正予算……3
- 常任委員会の焦点……4～5
- 一般質問に８名登壇……6～14
- 陳情……15
- 議員研修報告・全員協議会……16
- あれ なんとなったべが！……17
- 楽しんでます・がんばってます……18

No.141
2020年1月1日

「守りたい秋田の里地里山50」
認定の中村地域（薬師山、階段状の田園）

2020 あけまして おめでとうございます

議会の経過

12月定例会は12月9日から13日までの5日間の日程で開かれた。

初日渡邉町長は行政報告で「中心市街地でのデマンド型乗合タクシー『まちなか線』の実証運行を7月から行っているが、11月末までの5か月間の利用者は延べ28人で目標の15％程度となっている。実証運行は12月末で終了し、今後、利用が少ない原因など調査も含め、中心市街地での公共交通のあり方について、広域公共交通や乗合タクシーの運行とあわせて検討する」と述べた。

2日目、3日目の一般質問には8名が登壇。まちづくり・パート事務職員の賃金・小中学校の防災教育・豪雨対策・企業誘致・病院再編統廃合論と町の対応・防災政策・不登校児童生徒の対策などの質問をした。

3日目、令和元年度一般・特別会計補正予算案など議案16件が上程され、各常任委員会で審議した。

最終日、各常任委員長報告の後、国民健康保険事業財政調整基金条例の一部を改正する条例制定案は賛成少数で否決。人事案件を含む残り15議案は全会一致で可決・承認・同意とした。陳情6件は採択、1件は不採択、1件は継続審査とし、議員提出議案6件を全会一致で可決し閉会した。

年頭のあいさつ

未来を拓く年に

議長 小林正志

明けましておめでとうございます。

町民の皆様が、揃ってご健康で新年をお迎えのことと存じ、議会を代表してお慶びを申し上げます。

待ちに待った東京オリンピック・パラリンピックの年を迎え、世界中から集う選手の活躍を祈念するものです。

町民待望の五城目小学校の建設は、10月中には竣工の予定であります。完成が楽しみであります。

この3月には、町民の意思を決定する議会議員選挙が執行されます。我が町の将来・展望を熟慮した一票を投じていただきたい。

近年は「気候危機」が叫ばれる時代となりました。異常高温・集中豪雨・海水温の上昇・台風の強力化などの自然災害に脅かされる地球規模の恐ろしい現実があります。

スウェーデンの環境活動家で若干16才の少女グレタ・トゥンベリさんは「地球を守ろう」と必死に世界中に呼び掛けています。それに同調する若者たちが次々と立ち上がる姿には、本当に頭の下がる想いがいたします。

町の安寧を願うとともに、グレタさんの願いに応えうる年となりますよう祈念し、年頭の御挨拶といたします。

国保事業財政調整基金条例改正案を否決

五城目町国民健康保険事業財政調整基金条例の処分規定に、不測の実態に対応する規定が無かったことから、今後、不測の実態に対応し、弾力的な運用ができるようにするため、条例の一部を改正するものである。

改正案（処分規定第6条に次の1号を加える）

やむを得ない理由により生じた経費の財源に充てるとき

教育民生常任委員会では、弾力的な運用を可能とするためには「やむを得ない理由」の表現では消極的で不十分であり、文言を再度検討すべきなど意見があり、賛成者はなく、全会一致で否決すべきものと決したと委員長が報告した。それに対し、舘岡隆議員からは、否決すべき理由としてはインパクトが弱いとの意見があった。原案に対しての討論はなく、起立採決の結果、賛成少数で否決された。

条例改正案に賛成の議員

畑澤　洋子・舘岡　隆

条例改正案に反対の議員

荒川　滋・椎名　志保
佐藤　慶彦・斎藤　晋
佐々木仁茂・石井　光雅
伊藤　正春・千田　峯夫
荒川　正己・石川　交三

欠席した議員

佐藤　重信

補正予算の主なもの

- 道路補修工事請負費　709万円
- 除雪事業費　4，191万円
- 広ヶ野住宅払い下げに向けた測量・分筆・登記委託料　404万円
- 教育施設整備基金積立金　5，000万円
- 小学校教師用指導書及び教材用備品費　492万円
- 財政調整基金積立金　4，951万円

払い下げが予定されている広ヶ野住宅

（石井　光雅）

こんなことを審議しました

総務産業常任委員会

委員会の焦点

町非常勤職員の働き方が変わる

地方自治法と地方公務員法改定により、会計年度任用職員が制度化され、令和2年4月1日より次の点が変わる。

・これまでの一般職非常勤職員及び臨時的任用職員は会計年度任用職員となる。

・町では常勤の一般職よりも短い勤務時間のパートタイム会計年度任用職員へと移行する。基本的な勤務時間は8時30分から16時30分まで（休憩1時間）の7時間。

・これまでの11カ月雇用はこの度の制度の趣旨に反するため、適正ではなく、通年雇用となる。

・期末手当の支給が可能となる。1・45月分。（週の勤務時間が15時間30分以下の場合を除く。）

・通勤手当は支給するが、退職金支給対象とはならない。

9月1日現在の臨時的任用職員の数は64名。

（荒川　滋）

除雪委託料へ4,000万円補正

本格的な降雪期を控え、除雪委託料に4，000万円の補正予算が組まれた。当初の3，000万円に加え、7，000万円の予算となった。

なお、今期の除雪体制は、事業所が1社減の9社、車輌が3台減の39台となる。

除雪は毎年課題が多く、町民の困りごとのひとつであるが、今期は満足できるものであるよう期待される。

満足できる除雪体制を望む声は多い

6ヵ所で道路補修実施

破損が目立つ町道の補修工事が行われる。今後の降雪と気温状況によるが、早期着工と完成を目指して工事が進められる。場所は次の通り。

・西野矢場崎線（西磯ノ目）

・西野海老沢線（谷地中）

・上町線（上樋口切通交差点付近）

・東磯ノ目幹線（紀久栄町）

・農業倉庫前線（五城館付近）

・岩野高崎線（上樋口簡易郵便局付近）

交通量が増えている西野矢場崎線

こんなことを審議しました

教育民生常任委員会

委員会の焦点

国保基金条例改正案を否決

五城目町国民健康保険事業財政調整基金条例の一部を改正する条例制定案について、審議した。

国保連の誤りにより返還金が発生したことで、不測の事態に対応し、基金の弾力的な運用ができるよう条例の一部を改正するものである。

当局案は「やむを得ない理由により生じた経費の財源に充てるとき」という一文を加えるものであった。

住民の負担軽減のため、委員会では以前から、基金の弾力的な運用ができるよう条例の改正を求めてきた。

委員からは「やむを得ないという表現は、いかにも消極的で、もっと積極的な基金の運用を行うと捉えられる文言に見直すべき」「当局案は、国保連の誤りにより生じた返還金にのみ対応するものであって、弾力的運用とは言い難い」「税率の大幅な引き下げを緩和するための財源に充てる、といった具体的な内容を盛り込んでいる自治体もある」などの意見が出された。

返還金の納付が年度内とされていることから、より積極的な基金運用が可能となる文言に整理し、提出し直すよう求め、全会一致で否決すべきものと決した。

救急搬送体制が強化される

このほど新しい高規格救急自動車が納車された。平成15年から稼働していたものと入れ替え、更新したものである。

委員からは「どのような機能が加わったか」との質問があり、担当からは「最新の心電図が搭載され、心臓の動きをさらに細かく見ることができるようになった。そのことで、より正確な情報を医師に伝達でき、速やかな診療に結びつく」との説明があった。

車内空間が広くなったことで動きやすさが増し、今まで以上に処置、観察が行いやすくなった。

救急車内部の様子

コミュニティスクール制度始まる

令和2年度からコミュニティスクール制度を導入するにあたり、学校運営協議会が設置される。

コミュニティスクールとは、学校と保護者・地域住民が知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させ、協働で子どもたちの豊かな成長を支える仕組みである。

委員から「協議会のメンバー構成は」との質問があり、担当からは「保護者、地域住民、学識経験者、学校関係者など20名以内を予定している」との説明があった。

今年度は、1月中に委員を選定、2月に各学校から示された学校運営基本方針に対し意見を求め、3月に承認が得られるよう方針を固める日程が組まれている。

（椎名　志保）

一般質問

8議員が登壇 36項目を質す（ただ）

一般質問とは？

一般質問は、年４回（3、6、9、12月）の町議会定例会において行われます。
議案とは関係なく、町政全般にわたって議員主導による政策論議であり、通告制が採用されています。
一般質問をするかしないかは、議員個人の判断によります。
＊五城目町議会では、質問者１人につき持ち時間は60分（質問・答弁含む）となっています。

質問者

佐藤　慶彦　議員
- ○まちづくりに関して
- ●第６次行政改革推進プログラムに関して
- ○第４次職員定員適正化計画に関して
- ○教育委員会に関して

斎藤　　晋　議員
- ○任用職員（パート事務職員）の賃金について
- ●町の有償ボランティアの報酬について
- ●職員・教職員の懲罰について
- ○除雪について
- ●休日期間中における緊急事案に対する対応について

佐々木仁茂　議員
- ○小中学校の防災教育について
- ○自主防災組織立ち上げ推進と課題について
- ○公共施設敷地内の安全性と管理について
- ○森山下地区治山工事関係の今後について
- ●地域運営学校の導入を
- ●全町体育祭は地区対抗で

畑澤　洋子　議員
- ○豪雨対策について
- ○イクメン・イクボス宣言について
- ○子供の貧困対策計画について
- ○公共施設（広域体育館）のバリアフリー化について

石井　光雅　議員
- ○中央線のケヤキの伐採について
- ○企業誘致について
- ●朝市マラソンについて
- ○教師間におけるパワハラについて

石川　交三　議員
- ○厚生労働省の病院再編・統廃合と町の対応について
- ○地上配備型迎撃システム「イージスアショア」撤回すべき
- ○就職氷河期世代就労支援で公務員の中途採用を進めよう
- ●国保事業の拡充と均等割りの廃止、福祉施策の対応について

荒川　　滋　議員
- ○防災対策について
- ○厚生労働省が再編統合を促す必要があると公表した湖東厚生病院について
- ○ＤＭＯ観光の取組み
- ○地域公共交通について
- ●商店街振興策とプレミアム付き商品券について

椎名　志保　議員
- ○湖東厚生病院の今後は
- ○不登校児童・生徒の対策を
- ○地域包括支援センターの機能強化を
- ●空き地バンクの取組みを

＊誌面の関係上掲載できなかった●印の質問については、町ホームページにて議会映像を配信しておりますのでそちらをご覧下さい。

五城目町議会映像配信中　www.gojome-town.stream.jfit.co.jp

（佐藤　慶彦）

あなたにかわって聞きました

一般質問

社会福祉士の増員を

町長 計画策定にあたり必要と捉えている

佐藤 第４次職員定員適正化計画において、現在１名しかいない*社会福祉士増員の検討状況は。後期高齢者（75歳以上）が増え、*成年後見制度に係わる相談業務など多忙化し、責任のある仕事は増える一方であり、有資格者の採用を継続して行っていくべきだ。団塊の世代が後期高齢者となる２０２５年に向け体制の強化を。

佐藤　慶彦

町長 計画策定にあたり、社会福祉士や保健師など、有資格の職員の必要性も考慮が必要と捉えている。

増員については令和２年度の大学卒一般行政枠採用の候補者１名が社会福祉士資格の取得見込みであり、資格取得に大きく期待をしている。

佐藤 合格を期待している。しかし２名いれば良い訳ではなく継続して有資格者採用の努力が必要だ。

UDタクシー普及の後押しを

佐藤 年齢や障害の有無を問わず誰でも利用できるように設計された*UD（ユニバーサルデザイン）タクシーは町内に普及しているか。公共交通機関が衰退する地方において車椅子を利用する人たちには大切な移動手段であり、普及を後押しすべきだ。

町長 県内では、32台が導入され、秋田市で25台、県内で7台である。

普及の後押しについては、車椅子のまま乗降できる福祉タクシーによるケア輸送サービスの現状を踏まえ、タクシー事業者の意向を確認し、検討するべきであると考えている。

車椅子使用者だけでなく誰でも利用できるUDタクシー

学校ICT環境の拡充を

佐藤 国の目標の「子供１人に１台」の学習用コンピュータは、町では何人に対し１台か。ICT環境の格差が全国で広がってきており、町でも積極的に整備すべきだ。

「現代の読み書きそろばん」と言われる情報教育は、子供時代にパソコンなどにどれだけ触れるかで、大きな差が付きかねない。

教育長 現在、小中学校にそれぞれ90台の教育用タブレットを整備済みで小学校は３人に１台、中学校は１・６人に１台となっている。

「１人１台」となると多額の予算が必要になることから、整備費に対する補助金など、国・県の動向を見ながら整備を検討していきたい。

佐藤 東京都渋谷区は既に１人１台であり、予算の問題はあるが、ICT環境の整備は国ではなく町の役割との認識を持って導入を進めていくべきだ。

＊「社会福祉士」とは
医療・福祉・教育・行政機関などで日常生活を営むのに問題がある人からの相談に対して助言や指導、援助を行う専門職。市町村の地域包括支援センターでは必置資格となっている。

＊「成年後見制度」とは
加齢や障がいのため判断能力が十分でない方（認知症高齢者など）の権利を擁護するための制度。

＊「UDタクシー」とは
運賃料金は一般のタクシーと同じで、健康な方はもちろん、車椅子使用者、ベビーカー利用の親子連れ、妊娠中の方、大きな荷物を持った方など、誰もが利用できるやさしい新しいタクシー車両。

あなたにかわって聞きました

一般質問

任用職員の時間給は

町長　期末手当を含んだ時間給は998円となる

斎藤　晋

任用職員（パート事務職員）の平均時間給は

町長　今年9月1日現在、臨時的任用職員64名の平均時間給が882円、法の改正により令和2年4月1日より会計年度任用職員に移行し、期末手当1・45ヶ月を含んだ時間給は998円となる。

＊地方公務員法及び地方自治法の改正により令和2年4月1日から、非常勤職員及び臨時職員は7時間のパートタイム会計年度任用職員となる

正職員と任用職員（パート事務職員）の賃金（時間給換算）の差は

町長　平成30年度の地方公務員給与実態調査では、当町一般職員の平均給与月額は334，000円となり時間給にした場合、1時間2，052円。4月1日以降のパートタイム会計年度任用職員の時間給は998円と見込んでいる。

正職員と任用職員（パート事務職員）の仕事内容の違いは

町長　現在は立案等の業務はさせず、正職員の業務の補助をさせている。改正後は、条件付き採用・服務及び懲戒の規定が適用されるが、これまでと同様に企画立案の業務はさせず、正職員の業務の補助をさせる。

斎藤　**同一労働同一賃金の原則が有り、責任の所在や仕事内容には違いが無ければならない。**

除雪業者は確保できたか、除雪業者のそれぞれの路線数及び距離はどうなった

町長　業者の数は昨年より1社減の9社で除雪機械も3台減の39台、矢場崎集会所付近の400mは町直営で実施、全430路線、総延長133・6㎞となる。

令和元年度　業者別除雪路線数及び距離数　一覧表

No.	業者名	合計		機械台数
		路線	延長（m）	
1	石井建設	15	3,718.5	2
2	㈱畠山	228	65,095.2	19
3	佐々木造林㈲	20	10,972.5	2
4	㈱セコー	1	5,375.6	2
5	石次建築	9	2,118.8	1
6	㈲アイ・ケー	29	6,657.8	2
7	㈲澤忠林業	59	22,756.3	6
8	㈲伊藤製材所	42	12,244.5	3
9	五城目トーヨー住器㈱	25	4,259.0	2
町直営		2	406.6	1
合計		430	133,604.8	40

その他に
- ○有償ボランティアの報酬はいつ改正された
- ○職員報酬と有償ボランティアとの報酬の差は
- ○教職員懲罰規定の改正
- ○教職員間のいじめ・パワハラ・セクハラは有るか
- ○パワハラ・セクハラ委員会は有るか
- ○除雪業者に求める事は
- ○年末年始の休みは
- ○年末年始の休み中の緊急事案の対応は

などを質問しました。

暖冬の年は、雪が多い

あなたにかわって聞きました

一般質問

小中学校の防災教育の充実を

教育長　命を守る安全な行動が出来るよう指導していく

佐々木仁茂

佐々木　近年の自然災害頻発の状況下において、防災教育の重要性が高まっている。防災教育では、まず自分の命を守ることが基本である。小中学校ではどのような防災教育を行っているのか。

教育長　小学校では、「自分の命を守るために自分で判断し行動することのできる児童を育成する」を目標として、低学年、中学年、高学年に分けて指導している。

　中学校では、保健体育、社会科の授業や学級活動の時間などで、小学校までに学習した内容をさらに深め、安全な行動が出来ること。

　また、災害時のボランティア活動等の大切さについても理解を深め参加できるなどを指導している。

佐々木　教職員の防災、減災の学びの場はどのようにしているのか。

教育長　県教育委員会では、全県の学校管理職及び市町村教育委員会防災担当者を対象に「安全管理指導者研修会」を開催している。

　今後「事前の危機管理」の重要性を認識し、学校に必要な指導・助言を行っていく。

自主防災組織の立ち上げ推進を

佐々木　現在、自主防災組織が立ち上げられている町内会は、全町の5割に満たない。小規模な町内会は、近隣町内会と連合で立ち上げてもいいのでは。

町長　「近隣町内会との連合で」という立ち上げについては、現在、検討している町内会もあり、非常に有意義且つ有効である。

　災害に強いまちづくり推進のため、自主防災組織立ち上げと防災活動の促進を図っていく。

公共施設敷地内の安全管理の徹底を

佐々木　各公共施設敷地内には、様々な構造物や樹木がある。これらが管理されずに老朽化・老木となれば災害時に危険性が高まる。農村環境改善センターの石垣の破損、富津内地区公民館の標柱の腐食、森山地区公民館の明かりがつかない腐食が進む照明灯、総合生きがいセンターの老朽化した看板と掲示板。これらは、数年間このような状態だが、安全・安心のために早期に対応をすべき。

教育長　指摘された件については、危険回避のため、早急に地区公民館長を交え地区町内会会長との協議を行い、安全確保に向けて対応する。

老朽化した生きがいセンターの看板

森山下地区治山工事の今後は

佐々木　森山下地区治山工事部分は、元年中に完成するが、下流は農地の狭い土水路である。過去の豪雨では、水の氾濫により農作物に被害を与えている。不安を抱える住宅もあるので対策が必要である。

町長　下流については、現地を調査し関係者と協議して下流の農地・住宅地に被害が出ないように対応する。

治山工事が完了した森山下地区

あなたにかわって
聞きました
一般質問

広域体育館のバリアフリー化を

町長　利用しやすい施設に改修

畑澤　洋子
（公明党）

畑澤　町の行事に欠かせない唯一の体育館は、町民の高齢化により集まりづらい場所になっている。築40年。公共施設等総合管理計画には、目標使用年数60年。今後10年間の改修で、施設の健全化を図る予定になっている。エレベーターを含めたバリアフリー化を。

町長　来年度移転する小学校の開校に合わせ、子どもや障害者・高齢者が、利用しやすい施設にする改修を検討する。エレベーター設置は、施設の構造や耐震化の問題があるが、障害者・高齢者に寄り添う体育館へとなるよう検討する。

段差の激しい広域体育館の２階玄関

避難者支援は最大限に

畑澤　平成30年５月18日豪雨。中学校体育館に２施設の入所者90名と職員が一夜を過ごした。環境の違う場所での介護は、入所者にも介護者にも、精神的、肉体的に辛い環境だ。町に出来る支援を精いっぱいやってほしい。

　医療的処置の必要な入所者を地元の病院に一時入院できるよう提携を結んではどうか。合わせて河川の河岸・護岸・底ざらえ等、県に強く申し入れを。

町長　避難所の設備、備品、資機材を、今後計画的に整備し様々な立場の方々に配慮した支援をしていく。

　地元病院との提携は、関係機関と協議の上、避難者を最優先に考えた提携が可能か模索していく。

　河川については要望済みだが、更なる要望活動を行っていく。

＊イクメン・＊イクボス宣言を

畑澤　町で宣言して、企業へも宣言の普及を。

町長　全国的に広がっていることから周辺町村の動向を見ながら考慮する。

＊「イクメン」とは
育児休業を取得したり、積極的に子育てに関わる男性。

＊「イクボス」とは
男性の従業員や部下の育児休業取得を促すなど、仕事と育児を両立しやすい環境の整備に努めるリーダー。

子どもの貧困対策計画と子ども食堂

畑澤　子どもの貧困対策推進法による町の貧困対策計画は、来年、中間評価になっている。評価の方法は。

　全ての子どもの居場所づくりに子ども食堂も有用だ。やりたい個人や団体に交付金を出してはどうか。

町長　評価の方法は、町民アンケートを実施し、満足度で表わし、低い事業には改善策を実施する。子ども食堂は「あらゆる世代の人が集い、第３の居場所」的存在。設置を考える人がいれば支援策を考慮する。

広がる子ども食堂の活動

あなたにかわって聞きました

一般質問

町の企業誘致活動は

町長　町への企業誘致のＰＲに努めている

石井　光雅

石井　町から企業がなくなっていく。人口も９，０００人を切ろうとしている。特に若者の減少が著しい。それは町に働く場がないからである。
　企業誘致は簡単にできることではない。それでも誘致のための活動・努力は必要であり、人口減少に歯止めをかけるためにも若者が働ける場の確保に全力を尽くしてほしい。

町長　企業誘致について首都圏で開催される秋田県企業誘致推進協議会主催の「あきたリッチセミナー」などの機会を活用し町への誘致のＰＲに努めているが、現段階で具体的な成果を挙げるまでは至っていない。
　秋田市内の企業２社より町への事業進出の可能性について話をいただいているが、まだ方向性は定まっていない。今後とも協議を重ね、よい進捗が図れるよう努めていく。

町に本屋を誘致出来ないか

石井　宮脇書店が６月末で店を閉じた。町には本の好きな人、本屋がなくなって困っている人がたくさんいる。なんとか町に本屋を誘致出来ないか。

町長　活字ばなれから書店の減少化が顕著であり、こうした情勢の中で町に本屋を誘致するには高いハードルがある。町の書店は誰もが気軽に買い求めたい本を手に取りながら、活字文化に触れることが出来る場であり、本屋誘致について情報収集に努めていく。

閉店した大型書店

中央線ケヤキの大量伐採はなぜ

石井　国道２８５号・中央線・雀舘幹線などの植樹帯にケヤキが植えられている。今は大木に育ち、ケヤキ並木は町のシンボルでもある。今回は何本伐採したのか、その選定理由は。

町長　ケヤキの伐採本数は樹木が13本、枯れ木が２本の計15本である。選定理由は幹が大木化して、信号機の無い交差点部分の左右の見通しが利かない状態であり、危険・事故防止のため支障となる樹木を選定した。

大木に育ったケヤキ並木

教師間におけるいじめはないか

石井　神戸の小学校で教師間における凄惨ないじめが大きな問題となった。パワハラ・セクハラはどこの職場でもおこりうる問題である。本町の小・中学校の実態は。

教育長　本町の小・中学校ではこれまで教職員間のいじめ・パワハラ・セクハラなどの事案の報告や訴えは受けていない。
　教育委員会としては、パワハラやセクハラなどの不祥事根絶に向けた取組を進めるとともにパワハラなどの行為が起きた場合の相談体制を整備していく。
　また校長など管理職には、教職員の人間関係を的確に把握し、必要に応じて適切な個別指導を行うよう指示している。

あなたにかわって聞きました

一般質問

湖東厚生病院は地域になくてはならない病院だ

町長　なんとしても守る、死守する

石川　交三
（日本共産党）

石川　厚生労働省が公立・公的病院の再編統合を促すとして、全国４２４の病院名を一方的に公表した。秋田県内では５病院が対象となり、湖東厚生病院も含まれている。

厚労省は診療実績など全国一律の機械的な分析で病院を名指しした。そしてたった一年で結論を出せと求めている。むちゃくちゃな話で地域の実情をまったく考慮していない。国が掲げている地方創生にも逆行するものだ。住民にとってなくてはならない、欠かせない病院だ。厚労省に対して抗議や撤回を求めるべきだ。

町長　厚労省の発表は唐突なもので誠に遺憾だ。全国町村会長名で「地域医療構想の進め方に関する意見」を発表し、「住民の健康と命を守る」という使命と責任をもって地域医療を守っていくことを述べ、知事会・市長会・町村会の会長連名で「国と地方の協議の場」を要請した。厚生労働副大臣は統廃合を誘導するものではないと答弁している。

石川　厚労省は統廃合の議論を進め、来年９月までに結論を出してもらうという姿勢は改めてはいない。病院再編は推進するという考えが見てとれる。なんとしても湖東厚生病院は守るということを明言すべきだ。

町長　県・厚生連・４ヵ町村一丸となって必ず守る。がんばって死守する。

地域になくてはならない湖東厚生病院

役場職員の中途採用を進めよう

町長　住民サービスを提供していくうえで必要だ

石川　政府は30代半ばから40代半ばの就職氷河期世代の就労支援に向け、国家公務員の中途採用を実施する。わが町でも職員採用を控えた時期があった。重層的な年齢層が必要であり、世代間不均衡解消のためにも中途採用の年齢拡充と実施を求めたい。

町長　自立計画に基づき平成17年度から20年度まで採用を控えた。30歳代後半の職員数が著しく不足するいびつな構成になっている。この世代の補てんは、安定した住民サービスを提供していくうえで必要であり、第４次職員定員適正化計画において、採用・登用方法を検討のうえ、明確にしたい。

住民サービス向上に職員採用を

イージスアショアは撤回すべきだ

石川　一連の防衛省の対応はデータの初歩的な誤りや住民説明会での職員の居眠りにみられるように「住民軽視」「省庁の劣化」さらには有無を言わせぬ「国策優位」という現政権の一面が色濃く出ている。

世界でも類をみない配置計画は撤回すべきだ。

町長　９月定例会で地上イージス配備反対の決議が賛成多数で可決されており、議会決議は尊重すべきものだ。生活圏に隣接して地上イージスを配備することによって住民の暮らしに大きな影響がもたらされることが懸念される。

あなたにかわって聞きました

一般質問

湖東厚生病院、厚労省の発表への対応は

町長　誠に遺憾であり、死守する

荒川　滋

荒川　**９月、厚生労働省が湖東厚生病院に対し再編統合を促す必要があると唐突な発表を行った。**

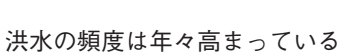
９年前、廃止の危機から住民の大変な活動が実を結び、２０１４年に悲願の再スタートをしただけに、今回の発表は地域の実状を考慮せず地方創生の逆をいくものであり腹立たしく感じる。県知事や各地の首長は批判の声をあげている。どのように対応するか。

町長　国と地方の協議の場が設けられ、これまで２回協議が行われた。町としては『住民の健康と生活を守る』という使命と責任をもって湖東厚生病院を守っていく考えに変わりはない。国との協議内容や、県と他市町村の動向を注視するが、死守する。突然の発表は遺憾である。

洪水ハザードマップは実状に見合ったものに

荒川　**平成22年度作成の町洪水ハザードマップ。マップ更新の際には、近年の宅地浸水域をしっかりと反映させ実状に見合ったものにすべき。**

町長　新しいハザードマップは来年度末までに完成の予定で、近年の洪水などを基に実態を踏まえたものにする。



洪水の頻度は年々高まっている

日本版ＤＭＯの取組みを

荒川　**全国各地で取り組みが広がりつつある日本版ＤＭＯ*。当町が取り組む場合、単独よりも近隣自治体と連携する地域連携ＤＭＯがふさわしいと考えるが。**

町長　町には自然・文化・気候・食という観光振興４条件が揃っている。周辺自治体の様々な組織や地域住民が一体となって参画する地域連携型のＤＭＯが有効と考える。簡単な取り組みではないが、実現に向け取り組んでいく。

＊「ＤＭＯ」とは
官民が連携して観光の振興に取り組む組織。欧米では一般的だが、日本でも取り組みが広がってきている。

広域マイタウンバスもっと利用しやすく

荒川　**五城目町・八郎潟町・大潟村を結ぶマイタウンバスは朝の時間帯の４本を除いて五城目高校入口バス停を通らない。矢場崎周辺の方々にとって利用しにくくなった。改善が必要だ。**

町長　南秋地域公共交通活性化協議会事務局会議で、矢場崎バス停について確認している。ルートや時刻などを定めた事業実施計画の変更が必要で協議会を経て対応・検討する。

朝市通りのカラス対策は

荒川　**現在、朝市通りはカラスのフン害がひどく、町の顔にふさわしくない。道路を横切る電線への対策を、所有事業者に要望するように。**

町長　東北電力とＮＴＴに対策依頼は継続しているが、事業者の予算関係もあり苦慮している。朝市開催日には人員を増やして洗浄作業を行っているが、更なる対策をするべく関係機関と協議を続ける。

町の顔である朝市通り

あなたにかわって聞きました

一般質問

湖東厚生病院の存続に強い働きかけを

町長　動向を注視していく

椎名　志保

椎名　再編・統合の必要な公的病院に『湖東厚生病院』も挙げられた。この地域の医療を守るため、町としても存続を強く働き掛けるべきではないか。

町長　「地域医療確保に関する国と地方の協議の場」において、今回の発表は、挙げられた病院の統廃合を誘導するものではないことを確認している。

県や他市町村の動向を注視していく。

椎名　湖東厚生病院の運営に対しては、町も毎年多額の支援をしている。地域医療という役目を果たしながらも採算の合う経営にしていくため、特化した診療科目を設けることはできないか。厚生連に対し、医師の的確な配置を求め、秋田厚生医療センターから地元患者を呼び戻すことと合わせ、積極的に要望できないか。

町長　収支改善の努力が見られ、今後も必要な診療科目を維持していく。引き続き県、厚生連、地元4町村が連携して医師確保に積極的に取り組んでいく。

守りたい、地域の医療

不登校の長期化を未然に

椎名　一度不登校になると長期化する傾向が見られる。学校へ行き渋る状態、行ったり行かなかったり不登校気味の児童・生徒への早期の対応が必要だ。教室へ行けない児童・生徒の居場所として「心の相談室」を再開できないか。

また初期段階で受診できる医療機関や、相談窓口などの情報提供を行ってほしい。

教育長　不登校児童・生徒へは、一人一人の状況に応じ、きめ細やかな指導を継続している。県総合教育センターの指導主事やスクールソーシャルワーカーとの連携を強化し、学校、保護者との教育相談、家庭訪問などの支援に取り組んでいる。相談窓口の周知、情報提供も適切に行っていく。

椎名　不登校となってしまった場合、支援する場が秋田市や潟上市に設置されているが、送り迎えなど働く保護者にとっては現実的ではない。町民センターなどを活用し、町内で登校と認められる場所を設置できないか。

教育長　不登校児童・生徒や保護者が、教育相談や支援を受けやすい場として、町内での設置を今後検討していく。

地域包括支援センターの機能強化を

椎名　主任ケアマネージャーを要する地域包括支援センターが、各事業所のケアマネージャーの中心となり、相談を受けたり、指導や研修の場を設けるなど、現場対応がスムーズなものとなるよう役目を果たすべきではないか。各地区の民生委員の方々とも連携するなど、ネットワーク作りも必要でないか。

町長　業務内容の検証を実施しつつ、地域包括支援センターの役割を果たしていく。

椎名　障害でもなく、介護でもなく、生活保護でも救いきれない制度の狭間にいる困難者をどう救済し、自立に向けた支援をしていくのか。

町長　いかなる場合であっても、「人の命」を最優先に考え、取り組んでいく。

椎名　日本郵便との包括的連携協定再締結により、住民や住家の異変などの情報提供が行われることになった。そのような事態が町に知らされた時、速やかに対応できる体制の整備を今一度、見直していただきたい。

役場1階左側奥に位置

陳情

五城目町議会が議決した意見書を各関係機関に提出しました。

採択

◆ケアプラン有料化などの制度見直しの中止、介護従事者の大幅な処遇改善、介護保険の抜本的改善を求める陳情

秋田県春闘共闘懇談会
代表委員　石川　洋基
秋田県労働組合総連合
議　長　加賀屋俊悦

採択

◆若い人も高齢者も安心できる年金制度の実現を求める陳情

秋田県春闘共闘懇談会
代表委員　石川　洋基
秋田県労働組合総連合
議　長　加賀屋俊悦

採択

◆お金の心配なく、国の責任で、安心してくらせる社会の実現のため社会保障制度の拡充を求める陳情

秋田県春闘共闘懇談会
代表委員　石川　洋基
秋田県労働組合総連合
議　長　加賀屋俊悦

採択

◆医師養成定員を減らす政府方針の見直しを求める意見書の提出について

秋田県医療労働組合連合会
執行委員長　石川　洋基

採択

◆介護従事者の全国を適用地域とした特定最賃の新設に関する意見書の提出について

秋田県医療労働組合連合会
執行委員長　石川　洋基

採択

◆「深刻な医師不足、高齢化の進行、公共交通機関の衰退など地方における公立・公的病院のおかれている医療従事者の状況把握を欠いたまま国の基準に基づく一方的な再編・統合は行わないこと」を国に求める意見書提出の陳情書

秋田県社会保障推進協議会
会　長　渡辺　淳

継続

◆日本政府に対して、国連の「沖縄県民は先住民族」勧告の撤回を求める意見書の採択を求める陳情書

一般社団法人日本沖縄政策研究フォーラム
理事長　仲村　覚

不採択

◆米軍普天間飛行場の辺野古移設を促進する意見書に関する陳情

宜野湾市民の安全な生活を守る会
会　長　平安座唯雄

採択に賛成の議員

畑澤　洋子　舘岡　隆

採択に反対の議員

荒川　滋　椎名　志保
佐藤　慶彦　斎藤　晋
佐々木仁茂　石井　光雅
伊藤　正春　千田　峯夫
荒川　正己　石川　交三

欠席した議員

佐藤　重信

（畑澤　洋子）

議員研修報告

農業を多方面から学ぶ

研修名　町村議会議員特別セミナー
研修日　10月3日～4日
研修先　滋賀県大津市
　　国際文化アカデミー
参加議員　荒川　滋　佐藤　慶彦
研修内容
「近未来の日本農業と地域社会～政策を考える基本視点～」
「子育てで地域に人を呼び戻す～森のようちえんを起点とした取組～」
「企業活動から見える地域との関わり」

感想
参加者のほとんどが町議会議員で、同じような規模で同じ課題を持っているから情報交換が出来、有意義な研修だった。

地方行財政の現状と課題を学ぶ

研修名　市町村議会議員特別セミナー
研修日　11月18日～19日
研修先　滋賀県大津市
　　国際文化アカデミー
参加議員　佐藤　慶彦　伊藤　正春
研修内容
「地方行財政の現状と課題」
「自治・分権の志はどこへいったのか　基礎自治体の行方を考えながら」
「最先端技術で変わる地域と自治体の未来」
「2040年に向けた自治体の課題と展望」

感想
資料の中で注目したことは、人口移動調査で「女性は男性に比べて東京圏へ転入しても戻らない」傾向がある。理由の調査で「若い女性は、進学だけでなく、地元に息苦しさを感じて移動している可能性が考えられる」とある。
若い女性の転出をキーポイントにして、町総合戦略を策定してほしい。

（畑澤　洋子）

監査委員の選任に同意

再任
本間　信義　氏（70歳）
帝釈寺

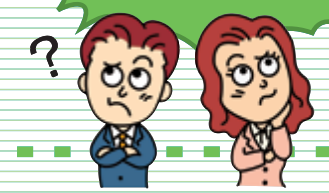
議会議員全員協議会

令和元年11月22日

協議案件
(1)五城目町国民健康保険事業財政調整基金条例の一部を改正する条例制定について
(2)会計年度任用職員制度の導入について

シリーズ ついせき 104

あれ なんとなったべが！



平成30年12月定例会一般質問より

問 大川分園は耐震基準を満たしてないが、今後の対応は。

答 大川分園の保育活動は保護者からの評価も高いことから、今後も存続し、耐震補強工事の実施に向け準備を進めている。

現在 令和元年10月15日に耐震補強工事が完了し、現在、園児は安全・安心の下で元気に活動している。

耐震工事が終わった大川分園

問 13年前にまちづくり課を設置した以降は、大きな機構改革を行っていない。組織の再編時期でないか。

答 検討することは十分可能であり、今後、組織機構の改革の中で検討していく。

現在 第6次行政改革推進プログラムの策定において検討したが、会計年度任用職員制度が始まることと、定年が65歳まで延長されるまで再任用職員の雇用が安定せず、職員数が固定できない状況での機構改革は、一部の部署の負担が大きくなる可能性もあることから、第6次行革推進の中で再検討することとしている。

問 来年度から「新たな森林管理システム」と「森林環境譲与税」が施行されるが、町の備えは万全か。

答 「新たな森林管理システム」により国・県・森林連合との連携を密にし、森林の多面的機能の発揮と林業の成長産業化を目指す。「森林環境譲与税」は関係森林所有者への意向調査・境界確認等を実施するとともに同税基金に積み立てする予定である。

現在 令和元年6月定例議会において、「五城目町森林環境譲与税基金条例」を制定すると共に、補正予算において森林環境譲与税基金積立金1４，261千円を計上している。

また、森林経営管理法に基づく事業を実施するため、令和元年9月5日に秋田地域振興局森づくり推進課、五城目森林組合、町とで「五城目町森林経営管理協議会」を設立し、来年度からの事業推進に向けて協議を行っている。

問 有形文化財の保護・継承が心配されるが、今後の対策は。

答 県の文化財保護担当部局などと連携し対応する。

現在 町の有形文化財の保護については、担当部局からの情報をもとに進めている。継承については、所在及び所有者確認作業の準備を進めながら準備でき次第、担当部局との連携を図り、対応していく。

（佐々木仁茂）

■発行　五城目町議会　■編集　議会広報編集委員会　■〒018－1792 秋田県南秋田郡五城目町西磯ノ目1丁目1－1　旧018－852－5411　FAX852－5402　■印刷　㈱八郎潟印刷

楽しんでます

『演奏活動で、いきいき』

五城目ハーモニカ同好会

◆会のご紹介を

伊藤　平成17年に大川地区公民館事業として始まり、その後「五城目ハーモニカ同好会」を結成。

昨年、創立10周年を迎え、記念コンサートを盛大に開催することができました。

◆活動の状況は

伊藤　平成22年に五城目町芸術文化協会に加入し、年2回の発表会への出演、各種イベントに招かれたり、介護施設を訪問し、演奏を披露しております。

これまでの演奏活動は70回を数え、井川町や八郎潟町など、町外からの依頼も増えております。

◆大切にしていることは

伊藤　ハーモニカ演奏だけでなく、漫芸や漫談、民謡のコーナーなどを間にはさみ、お客さまにより楽しんでいただけるよう趣向を凝らしています。また、プログラムの中に「秋田県民歌」や「若き郷土の歌」などの歌詞カードを入れ、会場全体でお腹の底から声を出し、歌うことで、気持ちのリフレッシュにもなるよう努めています。

◆今後の活動は

伊藤　設立当初は、健康づくりと親睦を図ることが目的でしたが、素晴らしい指導者に恵まれ、秋田市のハーモニカサークルと交流する機会も得て、今後は、演奏技術の向上にも努めていきたいと思っています。

会長　伊藤　一男さん（落合）
（前列左から３番目）

（椎名　志保）

がんばってます

『駆け抜けた一年』

五城目第一中学校３年
佐藤　紅花（べにか）さん
（古川町）

私は、平成から令和にかけて五城目第一中学校の生徒会長を務めさせていただきました。『革新』をスローガンにかかげ、五一中の新たな伝統を作り出せるよう生徒一丸となり頑張りました。

長年ダンスを習っていた縁もあり、昨夏のきゃどっこまつりで企画されたフラッシュモブに参加しました。五城目町を盛り上げるイベントで一翼を担うことができたことや、小学生の頃から続けてきた山内番楽について英語暗唱弁論大会で発表したことなど、良い思い出になっています。

さて、この度『税の作文』において、秋田北税務署長賞をいただきました。思ってもみなかった賞でしたので大変驚きました。この作文を通して、もっと税について知っていただけると嬉しいです。

今は間近に迫った高校受験で頭がいっぱいですが、目標達成のために精一杯頑張りたいと思います。

（荒川　滋）

編集後記

豪雨による未曽有の被害が毎年のように発生し多くの尊い人命が失われている。地球温暖化による自然現象の極端化で、日本近海の海面温度が上昇し、水蒸気が多く発生。勢力の強い大型台風が発生しやすくなっている。

日本は気候変動への備えが十分できていない。堤防やダムの建設、既存施設のメンテナンスなど、必要な公共事業を無駄使いだと削減してきた経緯がある。命を守る公共工事で国土の強靭化を進めてほしい。

何度も災害に遭い、生活の目処も立たない地域の皆様の、行き場のない憤りを思うと胸が痛い。

この一年も、無事故・無災害で守られ、町民の皆様がご健康でありますように。

畑澤　洋子　記